
令和7年度 第1回午後（2科目）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和7年2月1日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生^{くせんせい}どうしの貸し借り^{かか}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{もんだいさつし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は22ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の——線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 17日間におよぶスポーツの祭典がマクを開けた。
- ② 平安ギョクたちの一日は、夜明け前から始まる。
- ③ 戦争は、ゼツタイにしてはいけない。
- ④ サイバンは国民の理解と協力で成り立つ。
- ⑤ オガむようなしぐさで感謝を伝えた。
- ⑥ 子どもでも知っているくらい有名なソンザイだった。
- ⑦ お米のキョウキュウが不安定となっている。
- ⑧ 人間は直感だけに頼^{たよ}って誤りがちなのではないか。
- ⑨ 強風にあおられて大型トラックが横転した。
- ⑩ 暗くならないうちにと家路を急ぐ。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

稲^{いね}を植^うえるために田んぼを耕^かせば、草は土の下に埋^うもれて枯^かれます。田んぼに水を入れて代掻^{しろか}きすれば、残^{のこ}っていた草も水没^{すいぼつ}します。溺^{おぼ}れ死^しんだミミズもいっぱい浮^ういています。草とりでは、草を引き抜^ぬきます。稲刈^{いねか}りはまだ生きている根から、茎^{くき}葉^はを切り離^{はな}して干^ひからびるようにします。稲を食^くべていた害虫^{へっしやう}たちは餌^{えさ}がなくなります。

こうしてみると百姓^{ひやくしやう}仕事は、生きもののいのちを奪^{うば}ってばかりです。そうでない仕事の方が少ないぐらいです。「今日も草とりをしました」。こういうと「苦^く労^{らう}さまでした」とねぎらいの言葉が飛んできます。けれど言い方を変えて、「今日も草のいのちを奪^{うば}いました」と言^いったらどうでしょう。物騒^{ぶつそう}な言葉を口にした私のまわりに嫌^{いや}な雰^{ふん}囲^い気^きが、あつというまに広がるでしょう。

そう考えると「草とり」って便利な言葉です。いのちを奪^{うば}っている現実を見えなくしているからです。「耕^かす」も「刈^{かり}とり」も「中^な干^{かん}し」も同じです。「いのちを奪^{うば}っている」という現実を覆^{おほ}い隠^{かく}す言葉です。でも、これは（注^{しゆ}）^① 姑息^{こそく}な言^いい逃^{のが}れではありません。むしろ殺^{せつ}生^{しやう}を表に出さない方法を農^{のう}という営^{えい}みは、言葉で編^{へん}み出^だしているのです。

農業とは「生きものを育てているけど、同時にいのちを奪^{うば}っている」という現実と「生きもののいのちを奪^{うば}っているけど、同時に育ててもいる」という矛盾^{むじゆん}する事実がある職業です。私は、百姓としてこのことをしっかりと見^みつめていきたいと思^{おも}っています。

百姓仕事をする中で私は、生きもののいのちを奪^{うば}っていますが、いのちをすべて奪^{うば}っているわけではありません（一応そう言^いっておきます）。また次の年には必ずその生きものと会^あえるように、また生まれてくるように、私は仕事をしているからです。百姓は無意識^{むいしぎ}のうちに、意図^{いど}せずに、^② そのようなやり方^{やりかた}で仕事をやっているのです。そうした仕事は、記録として残^{のこ}ることはありません。

具体的に説明していきましょう。

たとえば田植えすると稲だけでなく、オタマジャクシもゲンゴロウも育ちます。しかし、オタマジャクシやゲンゴロウを育てることは田植えの目的ではありません。だからといって、オタマジャクシやゲンゴロウを追放して、稲だけを育てることは不可能です。そんなことなど百姓は考えもしません。オタマジャクシやゲンゴロウが育つことを意識的な目的としていないけれど、無意識のうちに目的に含ませています。だからこそ、オタマジャクシの脚が生えるまでは田んぼの水を切らないのです。しかし③そのことをわざわざ書き記すことはありません。

また長年引きつがれてきた仕事は、無意識に身体が動いてしまいます。たとえば草とりで多い草(害草)は、意識的に引き抜いていきます。ところが少ない草(被害をもたらない草)はついつい手が鈍り、残してしまいます。そもそも目に入らないことも少なくありません。その結果、少ない草は生き残ります。意識的に行使する農業技術とは異なる身体の動きは、記録に残したりしません。

さらに言うと、草はいっ耕されてもいいようにと、早くから花を咲かせて種子をつける個体もあります。またオタマジャクシは水が少なくなると、水のある低いところを探します。生きものの方が百姓仕事に合わせてくれているのです。

こう見ていくと、百姓仕事は生きものに合わせて行う仕事でなければならぬことになります。農薬さえ使わなければ、「生きものにやさしい」そして「環境にやさしい」と言う人もいますが、実際に百姓仕事のすべてにおいて、生きものへのやさしいまなざしをもっていないければいけないと私は考えています。

たとえばカエルが冬眠から覚めた頃に耕し始める、トンボが羽化し終わってから田んぼの水を落として中干しする、ヒガンバナ(彼岸花)の花が咲き終わって葉が出る前に草刈りをする、カヤネズミ(茅鼠)の子育てが終わってから稲刈りをする、という具合です。先ほども触れましたが、④こういうことは、稲作の技術書には書かれていませんし、記録もされていません。一人一人が、自分の持つまなざしを百姓仕事の中で豊かにするしかないのです。では、どうしてそうしたサイクルの中で仕事をしていくべきなのか、それは、田んぼが「いのちといのちをつなぐ」場所だからです。

ところが、戦後に開発された近代化技術というものは、農業生産の効率を上げるのが目的だったため、⑤生きものの生の

サイクルに合わせにくい技術が多いと言っていていいでしょう。そのため「いのちといのちをつなぐ」場所である田んぼが、そうでなくなることも多くありました。

たとえば、殺虫剤は害虫だけでなく、天敵やただの虫まで殺してしまいます。害虫だって、半分も殺せば十分な時もあるのに、一〇〇%を目指してまかれます。

トラクターで田んぼを耕す爪を回転させると、馬で鋤を引いていた時に比べて、カエルやミミズは逃げにくくなりました。草も見事に埋め込まれています。

また田植えをしてしばらくすると、田んぼの水を干す「間断灌水」や「中干し」をしますが、これは水の中の生きものを殺してしまいます。さらに稲刈りのコンバインは、稲刈りしながら脱穀していくので、バッタやクモは脱穀機の刃に巻き込まれてしまいます。

このことを自覚すると、これまで悩まずに済んだことを、悩まなくてはなりません。私は有機農業とは、こういう欠陥、つまり必要以上にいのちを奪ってしまう近代化技術を補うための「無農薬・無化学肥料」だけにとどまっていけないと考えています。むしろ⑥これからの農業は、生きものと必ず「また会える」ようにする仕事と技術を目指すべきだと思います。

この「また会える」つまり「いのちの引きつぎ」（いのちといのちをつなぐこと）を、人の手で責任を持って行うことこそ、農の最も深い本質・原理だと私は考えます。しかも農のすごいところは、この「また会える」のが作物だけでなく、田畑のすべての生きものとの関係にまで広がっている点です。そおーつと言いますが、農とはまた会える「相手」を増やしてしまふものなのです。

百姓の仕事は、「毎年、同じ生きものに会える」いやもつと積極的に「顔を合わせる」というべきでしょうか。百姓仕事とは、こうしたありふれた⑦日常茶飯事の連続です。しかし、この現象がいつも出現するためには、気の遠くなるような年

月、「いのちの引きつぎ」を、人の手で責任を持つて行^{こう}う行為を積み重ねていくしかないのです。

⑧ そのくり返しの中で、人間は、人間以外の生きものの「いのち」の大切さに気づいたのだと、私は思います。そしてとうとう、食べられていく「いのち」と自分の「いのち」が同じなのだ^{あぜ}と知ったのでしよう。

こんなことがありました。田んぼの畦^{あぜ}で休んでいた時のことです。目の前を飛んでいたトンボが、飛んできたツバメに捕^とえられました。その時に、食べられるトンボがかわいそうと思う気持ちと、エサを巢^{ひな}で待っている雛^{ひな}の喜びを思う気持ちの両方^{いっしょ}が一緒にやってきました。そしてツバメが去った後の田んぼを見ながら、「いのち」の悲しさと、「いのち」のありがたさの両方が胸^{せま}に迫^{せま}ってきました。

もう一つ私には忘れられない苦い思い出があります。私たち夫婦^{ふうふ}は田植え後四〇日間は、泊^とまりの旅行はしないことにしています。田んぼが心配だからです。ある年、どうしても一泊^{いっぱく}しなければなくなり、田んぼには川からたっぷり水を引き入れ、一番上の田んぼから一番下の五枚目の田んぼまで、次々に水をかけ流して、最後は余った水が川に流れ落ちるよう^{いっしょ}にして、出かけました。

ところが帰宅して、田んぼに行くと、一番下の田んぼだけが干上がってしまった^{あわ}ています。オタマジャクシは白い腹を見せてひっくり返っています。慌^{あわ}てて川からの水の取り入れ口に駆け^かつけると、上流から流れてきたビニール袋^{ぶくろ}が水口に張り付いて、水がほとんど入^いってきていないのです。急いで水を入れましたが、間に合いませんでした。その田んぼのオタマジャクシはみんな死^しんでしまったのです。

オタマジャクシの死骸^{しがい}を前にして、「ごめんよ。悪^{あやま}かったよ」と謝^{あやま}りました。私が出かけたために、その田んぼのオタマジャクシ六万匹^{ろくまんびき}のいのちが失われたのです。翌日から、他の田んぼはオタマジャクシがぴちぴち泳ぎまわっているのに、その田んぼだけは、中を歩いて、しーんとしています。私はとても「さびしい」と感じました。もうこういうことは二度としてはいけないと（注^き）^{めい}肝^{きも}に銘^{めい}じたのです。

農耕にとって、「いのち」の引きつぎは、タネとり、タネ播^まきだけではないのです。毎日の百姓仕事の中で、つねにカエル

へまなざしを向けていると、どんな時もカエルの「いのち」を感じようになります。つまり百姓は、田んぼに水をためるのは稲のためだとは意識していますが、生きもののためにも無意識に水をためている、と言えます。だからこそ、うつかり田んぼの水を切らしてオタマジャクシを殺してしまつたら、とても胸が痛みます。この話を仲間の百姓にすると、ほとんどの人が「私もそう感じた経験がある」と言います。

農耕によつて「いのち」の引きつぎへのまなざしが強まると、作物の近くで育つ作物以外の草木（植物）へのまなざしも広く深くなつていきます。年寄りの百姓に聞き取りをしていると、動物の名前よりも植物の名前の方をよく知っています。何よりも「草とり」の時に、名前を呼びながらとっているからです。

草の芽生えは、よく気づきます。葉が伸びていくのも速く、実がついて、枯れていくのもよくわかります。いのちが現れて、死んでいくのを、はっきり感じるができます。こうした体験を積み重ねる中で草木へのまなざしは、さらに深くなり、草木の「いのち」への憧れとなつていきます。

草は毎年枯れても（木は葉が枯れても）、必ず春になると芽生え、木には新緑が芽吹きます。新芽にしろ、新緑にしろ、春の輝きは、「いのち」が引きつがれた喜びにあふれています。この再生する生命力に人間はかなわないのではと思います。だからこそ人間は、人生の節目や様々な状況（じやうきょう）を草木になぞらえて、たとえば「やつとあなたも【1】が出たね」「私の努力が【2】を結びました」「あの人は心根がやさしい人ですね」「私は心が折れてしまいました」「それは枯れた境地ですね」と表現するのかもしれませんが。

（宇根 豊『農はいのちをつなぐ』より）

（注1） 姑息な……その場のきの。

（注2） 肝に銘じた……心に深く刻みつけた。

問1 ——線部①「殺生^{せつしょう}を表に出さない方法を農という営みは、言葉で編み出している」とは、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 生きものを育てる農業は、言葉に工夫をすることで他の生きもののいのちを奪^{うば}わずに済む方法を編み出している、ということ。

イ. 生きものを育てる農業は、他の生きもののいのちを奪^くつてもいるという現実がわからないように言葉で工夫^{くふう}しているということ。

ウ. 生きもののいのちを奪^うう農業は、他の生きものを育ててもいるという事実がわからないように言葉で工夫している、ということ。

エ. 生きもののいのちを奪^うう農業は、言葉に工夫をすることで、他の生きものを育てることのできる方法を編み出している、ということ。

問2 ——線部②「そのようなやり方」とありますが、具体的にはどうするのですか、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 季節の移り変わりに合わせて環境^{かんきょう}にやさしい農業を心がける。

イ. 農薬は田んぼの生きものが死んでしまうので使用をひかえる。

ウ. 農業に害をもたらさないように雑草はすべて除去する。

エ. 農作業の時期を田んぼの生きものの成長に合わせて調節する。

問3 ———線部③「そのことをわざわざ書き記すことはありません」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 田植えをするとオタマジヤクシやゲンゴロウが育つということは、田植えをする人が特に意識していることではないから。

イ. 田植えをするとオタマジヤクシやゲンゴロウが育つということは、みんながすでによく知っていることだから。

ウ. オタマジヤクシやゲンゴロウを育てることが田植えの目的となっていることは、田植えをする人が特に意識していることではないから。

エ. オタマジヤクシやゲンゴロウを育てることが田植えの目的となっていることは、みんながすでによく知っていることだから。

問4 ———線部④「こういうことは、稲作の技術書には書かれていませんし、記録もされていません」とありますが、稲作

のどういう性質が書かれたり記録されたりしないと筆者は述べていますか。解答らんに合わせて二十字以上三十字以内で答えなさい。ただし、句読点も字数にふくめるものとします。

問5 — 線部⑤「生きものの生のサイクルに合わせにくい技術」の例として次の中で最もふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. コンバインで稲刈^{いねか}りをする事。
- イ. 間断灌水や中干^{かんたんかんすい}しを行う事。
- ウ. トラクターで田んぼを耕^かす事。
- エ. 殺虫^{さつちゅうざい}剤を使う事。
- オ. 馬^{うま}で鋤^{すき}を引く事。

問6 — 線部⑥「これからの農業は、生きものと必ず『また会える』ようにする仕事と技術を目指すべきだと思うのです」とありますが、なぜそう思うのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 農業生産の効率を上げる目的の近代化技術が、逆に農業生産の効率を下げているから。
- イ. いのちといのちをつなぐはずの近代化技術が、逆に生きもののいのちを奪^{うば}うものになっているから。
- ウ. 農業生産の効率を上げる目的の近代化技術が、生きもののいのちを必要以上に奪^{うば}ってしまっているから。
- エ. いのちといのちをつなぐはずの近代化技術が、効率をあげる目的で利用されているから。

問7 ———線部⑦「日常茶^さハン事^じ」の「ハン」と同じ漢字が用いられているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. ハンタイ意見を述べる

イ. お祝いにセキハンをたく

ウ. 書きぞめ用のハンシを買う

エ. ハンガを作成する

問8 ———線部⑧「その」は何を指していますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. ある生きもののいのちが、誰^{だれ}も知らないうちに別の生きもののいのちへと生まれ変わっていくこと。

イ. ある生きもののいのちが、長い年月をかけて別の生きもののいのちへ引きつがれていくこと。

ウ. ある生きもののいのちを、誰にも気づかれないように別の生きもののいのちへと生まれ変わらせること。

エ. ある生きもののいのちを、人が責任を持って別の生きもののいのちへ引きついでいくこと。

問9 空らん【1】・【2】に当てはまる語をそれぞれ本文中から探し、漢字一字で答えなさい。

問10 この文章を読んで、四人の生徒が農耕についてどのようなことが書かれていたか話し合いました。四人のうち、筆者の主張に合っていないものはだれの発言ですか。A～Dの記号で答えなさい。

生徒A 米作りをする人は植物の名前よりも植物のまわりにいる動物の名前をよく知っているんだ。

生徒B 有機農業は近代化技術を補うための「無農薬・無化学肥料」だけにとどまってはいけなと言っているよ。

生徒C 米作りをする人が田んぼに水をためるのは稲のためだけではなく、ほかの生きもののためでもあるみたいだよ。

生徒D 草は毎年枯れても、春になると必ず再生する。その生命力に人間はかなわないんだね。

〔三〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

案の定、僕とジルとのことは、クラスじゅうの関心をあつめた。ジルが僕に片想いをしているのだ、とか、僕とジルは親
どうしが決めた結婚相手なのだ、とか、いろんな噂が飛んだ（おかげで、歌の練習はほんとにやりにくかった）。おまけに、
噂はパーネルさんのところまで届き、きょうは、スープをうけとるときに、

「また遊びにいらっしやい。チョコレートブラウニー、焼いてあげるから。ジルもいっしょにね」
なんて言われてしまった。言いながら、パーネルさんはウインクをした。こういうのは、なんだかきゆうくつだ。

放課後、スクールバスに乗ると、ジルは真ん中より少ししろの窓際の席にすわっていた。となりにどかとかばんをお
いている。僕が乗る前に誰かがすわってしまったように、ジルはいつもそうするんだ。それで、ぼーっと窓の外をみてい
る（ふりをしている）くせに、僕が行くとさとかばんを膝にのせる。だから、僕はそこにすわらないわけにいかなくなる
のだ。

僕は、わざとどしんと腰かけた。

「お行儀悪いわね」

ジルが言う。ジルはときどき、こんなふうにママみたいな



をきくんだ。

「大きなお世話だよ」

「ダイッ」

ジルは大げさな表情で言う。

「それが女の子に対する



のききかたなの？」

なにが女の子だよ。笑っちゃうよ、まったく。

「夫婦げんかですか」

ジョージが前の席から ★ をだした。ジョージはサミュエルの子分だ。色のうすい金髪^{きんぱつ}を短く刈^かりあげて、冬でも半ズボンをはいている。

「うるさい」

僕は言ったけれど、① ジョージはにやにやしている。まわりにいる奴^{やつ}らもにやにやしていて、しかたなく僕はだまった。こんなところで本気になっておこったら馬鹿^{ばか}みたいだ。

「だからもつとしずかにすわるべきだったのよ」

ジルが小声で言う。勝手にしてくれよ。僕はもうおこる気力もなかった。(注1) ジーザス・クライスト!!

サミュエルとけんかをしたのは、十月の最後の水曜日だった。広くて寒い音楽室で、僕たちは「クリスマスの十二日」をくり返^くり返^かうたっていた。

クリスマスの一日目、

恋人^{こいびと}があたしにくれたのは、

梨^{なし}の木にとまった一羽^{いちわ}のうずら。

クリスマスの二日目に、

恋人があたしにくれたのは、

二羽^{やまばと}の山鳩^{やまばと}と、

梨の木にとまった一羽のうずら。

こうやって一日ごとにプレゼントがふえていく、うんざりするような長い歌^{うた}なんだけど、三日目の歌詞の、「三羽のめんどスリーフレンチヘンズ^{スリー フレンチ ヘンズ}」を、サミュエルのやつが「三つのキス^{スリー フレンチ キス} (Three French Kisses)」ってうたったんだ。ひどい声をはりあげてさ。僕はかーっとして、まず、ジルをにらんだ。キスのこと、ジルがしゃべったにちがいないと思ったんだ。

ジルは、大きな目をさらに大きくみひらいて、僕をにらみ返した。その目は、わたしはなんにも言っていないわ、って言っていた。すごく迫力のある目だった。サミュエルが僕の耳もとで、ジルは色男の日本人に夢中、ってささやいた。

不運だったのは、サミュエルがめんどり役だったってことだ。僕がかーとした瞬間、サミュエルは床にしゃがみこんで、僕のとなりをヨチヨチ歩いていたんだからね。②僕はサミュエルをおもいきり蹴りあげた。女の子たちが悲鳴をあげ、ミズ・カークブライドがピアノをやめた。

サミュエルは、一メートルくらいむこうにころがった。一瞬の沈黙のあと、サミュエルはおきあがり、敵意のこもった目つきで僕をみすえた。そして、からだごと僕にとびかかって、僕をおしたおした。

僕たちは、両腕に渾身の力をこめて、ぐるぐるところがった。何度も、椅子や机にひっかかったけど、そのたびにそれを蹴ってバネにした。もちろん、ミズ・カークブライドは叫んだり、どなったり、おさえつけてやめさせようとした（ころがりながら、ミズ・カークブライドの折れそうな細い足が、僕たちのまわりを③）。①往②往するのが目のはじめにみえた。でも僕たちは、どちらかが④音をあげるまでぜったいにやめないつもりだった。

僕が上になってサミュエルをおさえつけているとき、僕は床に、赤い点々がかなりたくさん、遠くからつづいているのに気がついた。ぞっとした。ぞっとしたとたんに、サミュエルが僕のあごをおもいきりなぐった。

うしろから、誰かが僕をひよいと抱きあげた。となりの担任の「赤ひげ」だった。ミズ・カークブライドがサミュエルを助けおこす。僕たちは二人とも、興奮のために少しふるえていた。

けつきよく、床の血はサミュエルのものであった。たおれたひょうしに頭がちよっと切れたらしい。保健室で包帯をまかれながら、

「ダイが先に手をだしたんだ」

って、そればかり、何度も言っていた。

「心配はないと思いますが、いちおう、病院でレントゲンをとってきます」

養護の先生が言い、サミュエルをつれてでていった。

職員室はざわざわして、先生たちがみんな、テレビをみたりコーヒーをのんだりしてくつろいでいる。

「お母さんにむかえにきてほしい？」

ミズ・カークブライドは言った。

「いいえ」

「わかりました。でも連絡はしなくちゃならないわ。規則だから」

「はい、先生」

あごが、ずきんずきんしている。

「ダイ」

授業をさまたげたことと、友だちにけがをさせたことは、じゅうぶん反省に値しますよ、とミズ・カークブライドは言った。

「暴力で片づけようというのは、野蛮人の行為です」

「はい」

僕は、ゆつたりと組まれた、ミズ・カークブライドのつややかに黒くてかたちのいい、長い脚をみつめながら立っていた。
「煙草をすつてもいい？」

ミズ・カークブライドがきいた。

「どうぞ」

ミズ・カークブライドは、ひきだしから（注2）セーラムをだして火をつける。

「けんかをするのは、かならずしも悪いことじゃないわ」

この人はすごく（注3）ハスキーヴォイスだ。

「⑤ただね、タイミングってものがあるのよ。空砲くうほうをうつのばかげてるわ」

ふーっと煙けむりを吐はいて、ミズ・カークブライドはつづける。

「飛行機（注4） エアポケットみたいにふっと、今だ、ってタイミングがくるの。今なら物事が動く。タイミングってね、すごく大事よ。人生の中でも、特別大事なものの一つだと思うわ」

「色男の日本人、ってサミュエルは言ったんだよ」

「ダイ——」

「僕は日本人じゃない。日本のことなんて覚えてないし、日本語だって話せない」

左右の脚を組み変えて、ミズ・カークブライドは言った。

「わたしはアメリカに生まれてアメリカに育ったアメリカ人よ。二十八年間、一度もアメリカの外にでなかったわ。それでも、黒人に子どもを教育してほしくないって、そう言う人は何人もいるのよ。このぶた野郎やろう、って言いたくなるわ」

⑥ぶた野郎!!

「ねえ、ダイ。一つのことを、はじめから知っている人もいるし、途中とちゅうで気がつく人もいる。最後までわからない人もいるのよ」

なぜだか、ものすごく説得力のある言いかただった。

「ダイは自転車に乗れる？」

僕はうなずいた。

「わたしの弟は十四歳になるまで乗れなかったわ」

ミズ・カークブライドは灰皿で煙草をもみけす。

「それとおなじよ。タイミングって、とても個人的なものなの」

ひきだしをあけて小さなスプレーをだすと、ミズ・カークブライドは口の中にシュツシュツとふきつけた。煙草たばこの匂においが

消えて、ハッカの匂いになる。

「わかるわね」

僕はうなずいた。^⑦うなずくほかに、どうしようもないじゃないか。

「よろしい。教室にもどきなさい」

僕がドアの方に歩きかけると、それから、とミズ・カークブライドは言った。

「帰ったら、あごを少しひやすといいわ」

ミセス・クレイトンは、まっかな口紅をぬった大きな口でくつきりと笑い、

「はでにやったそうじゃない」

と言つて僕の背中をかるくたたいた。僕はだまつてバスに乗りこむ。

ジルはいつものとおり窓際にすわり、となりにかばんをおいていた。でも窓の外をみるふりはしないで、僕が通路を歩いていくのをじつとみている。大きな目だ。すぐく心配そうな顔をしている。僕がちかづくと、ジルはかばんを膝の上にのせた。僕はジルのわきを通りすぎて、知らん顔であいている席にすわった。ジルの、うしろのうしろくらいだ。心臓が、痛いくらいにどきどきする。ジルが何か言うんじゃないかって、ジルが何か一言でも言ったら僕は息がとまるんじゃないかって、そう思った。ジルは、なんにも言わなかった。

その夜、僕はママと、サミュエルの家にあやまりに行った。サミュエルのママは大柄で、白っぽい金髪だ。^{おおがら}レントゲンの結果、異常はなかった、とその人は言った。ほんとに申し訳ありません、とママが言うのと、サミュエルのママはおうように、「そりゃあ、暴力は困りますけどね、でも、まあ、たかが子どものけんかですから」

と言った。そう言われてママは恐縮^{きようしゆく}していたけれど、僕は、^⑧たかが、^{ふゆかい}という言葉がすごく不愉快だった。もちろん、そんなこと言えた立場じゃないからだまつていたけどさ。

僕たちは玄関^{げんかん}に立っていたんだけど、居間でテレビをみているサミュエルのうしろ姿がちらつとみえた。包帯が、光る

みたいに白かった。

帰りの車の中で、

「こんなこと、ママは二度とごめんよ」

と、ママが言った。窓の外は真っ暗な夜で、どの家もあかりがついている。

「なぐりあいだなんて」

運転しながら、ひとり言みたいにママは言う。僕はだまって外をみていた。風見鶏かざみどりがいくつも、闇やみの中をうしろへ消えていった。

(江國香織えくに かおり『こうばしい日々ひび』より)

(注1) ジーザス・クライスト……イエス・キリストのこと。ここでは「冗談じょうだんじゃないよ」というくらいの意味。

(注2) セーラム……煙草たばこの商品名。

(注3) ハスキーヴォイス……かすれた声。

(注4) エアポケット……飛行機が急激に下降する空域。

問1 本文中の空らん★には体の一部分を表す漢字が共通して当てはまります。その漢字を一字で答えなさい。

問2 — 線部①「ジョージはにやにやしている。まわりにいる奴らやつもにやにやしていて」とありますが、その理由を次のように説明しました。この文の空らん^{らん}に当てはまる言葉を本文中から二か所探し、それぞれ二十字以内でぬき出して答えなさい。

ジョージやまわりにいる奴らは【二十字以内】^いと思いこんでいるから。

問3 — 線部②「僕はサミュエルをおもいきり蹴りあげた」とありますが、この時の様子の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. サミュエルが自分をからかうような発言をしたことに腹が立ち、その時サミュエルが運悪く床ゆかにしゃがみこんでなりをヨチヨチ歩いていたから、僕はサミュエルを蹴りあげた。

イ. サミュエルがジルについて事実とちがう発言をしたうえ、となりにしゃがみこんでヨチヨチ歩きをしているのを見て腹が立ったから、僕はサミュエルを蹴りあげた。

ウ. サミュエルが自分をからかうような発言をした時、サミュエルがとなりにしゃがみこんでヨチヨチ歩いていることに腹が立ったから、僕はサミュエルを蹴りあげた。

エ. サミュエルがとなりにしゃがみこんで床をヨチヨチ歩いていることに腹が立ち、その時サミュエルがジルについて事実とちがう発言をしたから、僕はサミュエルを蹴りあげた。

問4 — 線部③ 「【1】往【2】往」は、「どうしてよいかわからず、あちこちへ動き回り、混乱した状態になること」という意味の言葉です。空らん【1】【2】に当てはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

問5 — 線部④ 「音をあげる」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 休戦を提案する

イ. 大きな声を出す

ウ. 勝ちを収める

エ. 負けを認める

問6 — 線部⑤ 「ただね、タイミングってものがあるのよ。空砲くうほうをうつのはばかげてるわ」とありますが、ミズ・カークブライドは、この言葉でどのようなことを「僕」に伝えたかったのですか。次の空らん₁に当てはまる二十字以上三十字以内の言葉を自分で考えて答えなさい。

今回は【二十字以上三十字以内】のに良い時機ではなかったということ。

問7 ——線部⑥「ぶた野郎！」とありますが、この言葉には僕のどのような気持ちが表れていると考えられますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 外見で差別されたとはいえ、保護者のことを汚い言葉で表現するミズ・カークブライドに不快感をいだいている。
- イ. 自分と同じように、外見で差別された経験を持っているミズ・カークブライドの悲しい気持ちに同情している。
- ウ. 汚い言葉を使わざるを得ないほど、外見で差別する人々に対してミズ・カークブライドが怒っていることに驚いている。

エ. 外見で差別されたことへの怒りを、汚い言葉を使うことでしか表せないミズ・カークブライドを軽べつしている。

問8 ——線部⑦「うなずくほかに、どうしようもないじゃないか」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 煙草を吸うことでようやく気持ちを落ち着かせたミズ・カークブライドに反論してしまうと再び怒らせてしまうと思ったから。
- イ. 自分と同じようなつらい経験をしたミズ・カークブライドの話には説得力があり、その考え方に納得せざるを得ないと思ったから。
- ウ. ミズ・カークブライドの言いたいことはあまり理解できなかったが、この場から逃げる方法にはないと思ったから。
- エ. ミズ・カークブライドのつらい経験に比べれば、自分の悩みはちっぽけでもうこれ以上こだわる必要はないと思ったから。

問9 ———線部⑧「た、か、が、つ、て、い、う、言、葉、が、す、ご、く、不、愉、快、だ、つ、た」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として

最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. サミユエルとのけんかは僕には大事おおくじだったのに、サミユエルのママがそれを大したことではないように言ったから。
- イ. けんかの原因をよく知らないのに、サミユエルのママが僕を一方的に悪者あつかいしているように感じられたから。
- ウ. 僕のママが何回も頭を下げてあやまっているのに、サミユエルのママがなかなかそれを受け入れようとしなから。
- エ. 僕がサミユエルのけがを心配しているのに、サミユエルのママはそのことを全くわかっていないようだったから。